

日本の火山活動概況 (2007年9月~10月)

気象庁

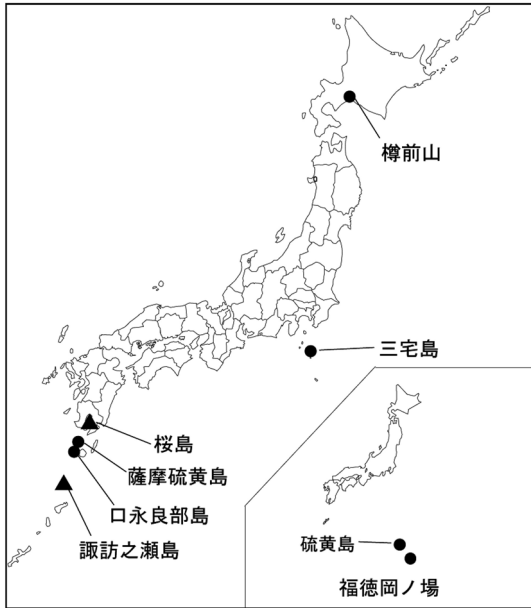


図 1. 2007年9月~10月に目立った活動があった火山

▲: 噴火した火山

●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●樽前山 (42°41'26"N, 141°22'36"E)

10月5日, 9~11日及び17~18日に行った現地調査では, A 火口の温度は約530°C¹⁾, B 噴気孔群の温度は約350°C²⁾と引き続き高温の状態が続いていた。全磁力繰り返し観測では, 熱消磁または帯磁を示す変化は認められなかった。山頂ドーム周辺で行ったGPS繰り返し観測では, 山頂ドーム直下のわずかな膨張を示す変化が引き続き認められたが, 山麓のGPS連続観測では特段の変化はなかった。

地震活動は低調な状態が続いている。

¹⁾ 5m離れた地点から赤外熱映像装置により測定

²⁾ 熱電対温度計で測定

●三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

期間中, 島内でDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測を6回行った。その結果, 二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000~6,000ト

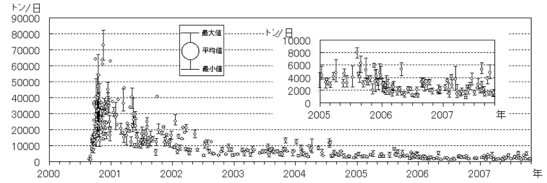


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月~2007年10月)

ンで, 依然として多量の火山ガス放出が続いていた。また, 三宅島の火山ガス濃度観測でも, 山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがやや低周波地震(約3~10Hzが卓越する地震)で, 高周波地震(約10Hz以上が卓越する地震)も時々発生した。その他にも低周波地震(約3Hz以下が卓越する地震)が2回発生した。震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される。火山性微動は観測されなかった。

山頂火口の噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。全磁力観測では, 火口直下の熱帯磁が鈍化しながらも続いている。

GPS連続観測では, 山体浅部の収縮と深部の膨張が継続している。

●硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると, 島全体が大きく隆起する地殻変動は2007年1月に鈍化したものの継続しており, 一時的な地震増加を繰り返すなど地震活動もやや活発な状態で推移している。

●福徳岡ノ場 (24°17.1"N, 141°28.9"E)

海上自衛隊, 海上保安庁及び第三管区海上保安本部が行った上空からの観測によると, 火山活動によるとみられる変色水が確認された。

▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

10月29日に南岳山頂火口で噴煙高度が2,400mに達する爆発的噴火が発生したほか, 10月19日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いていたが, 10月26日から28日にかけてやや増加した。

期間中, 島内でDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測を5回行った。そ

の結果、二酸化硫黄放出量は2007年6月以降、一日あたり500トン前後で経過していたが、10月24日、25日には800~1,100トンとやや増加していた。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くがB型地震で、A型地震も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがA型地震とBL型地震(約2Hz付近が卓越し、P及びS相が不明瞭な地震)であった。その他にも、BP型地震(一つのスペクトルピークが見られる地震)やBT型地震(コーダ部が一様にゆっくりと減衰する地震)が時々発生した。A型地震の震源は新岳火口直下浅部に求まり、BL型、BP型及びBT型地震の震源は求まっていないが、新岳火口直下のごく浅い所と推定される。

GPS連続観測では新岳の膨張傾向は、昨年12月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ(新岳火口の北西約3kmに設置)による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

10月26日に御岳火口で爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責:気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○京都大学防災研究所平成20年度共同研究の募集について

1. 公募事項
 - 1) 一般共同研究の募集
 - 2) 萌芽的共同研究の募集
 - 3) 研究集会の募集
2. 申請資格: 国立大学法人、公・私立大学、国公立研究機関及び独立行政法人機関の教員・研究者又はこれに準ずるもので、京都大学防災研究所の教員以外のもの。ただし、萌芽的共同研究及び研究集会の代表者については、必要な場合に限り防災研究所の教員も代表者となることのできる。
3. 申請方法: 所定の様式による申請書に必要事項を記載の上、各1部を提出ください。
4. 研究期間:
 - 1) 一般共同研究は、平成20年4月から1~2年間
 - 2) 萌芽的共同研究は、平成20年4月から1年間
 - 3) 研究集会は、平成20年4月から平成21年2月までに開催されるもの
5. 申請期限: 平成19年12月7日(金)
6. 提出先: 〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学 宇治地区事務局 研究協力課 共同利用担当
(Tel; 0774-38-3352, Fax; 0774-38-3369,
E-mail; uji.sien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)
7. 選考及び通知: 申請課題の採否及び経費査定は、本研究所共同利用委員会の議を経て、教授会で決定します。採否結果通知は申請者あて2月中旬に行います。決定額の通知は、7月頃の予定です。
8. その他:
 - 1) 本共同研究に関する事項・申請書の様式は、Webサイトで確認することができます。(http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/kyodo/kyodo20.html)
 - 2) 申請は、それぞれ別紙様式によるものを使用してください。なお、申請書は電子媒体の添付ファイルで送信ください。書式「Microsoft Word形式のみ」が必要な場合はご連絡ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月8日送信しました)

○シンポジウムのご案内

岡山大学地球物質科学研究センターでは、21世紀COEプログラムの一環として以下のような国際シンポジウムを開催いたします:

COE-21 International Symposium, MISASA-3

"Origin, Evolution and Dynamics of the Earth: a tribute to Eiji Ito"